

# “助けて”という声に 向き合う覚悟。

## 立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan  
りっけん

### 阿見町議会議員選挙 公認候補決定!

# 須崎秀信

新人

すざき  
ひでのぶ

人を助けられるのは、最後は、  
「人の手」だけだった。

阪神淡路大震災のとき、私は19才の自衛官として現地に派遣され、連日、焼け落ちた瓦礫の下からの人命救助と遺体の捜索に当たりました。その後、自衛隊を退官し、自動車部品の配送、コピー機の営業、ラベル工場の生産管理と職を変えてきました。職を移った理由は、減給であったり、リストラであったり様々でしたが、その度に誰かが私を気にしてくれ、次の仕事につなげてくれました。

阪神淡路大震災のことは今でも思い出します。黒々とした煙が空に上がる背筋が凍るような状況の中で、経験したことのない感情のなかで、私は、人を救えるのは、結局、人の手なんだと感じていました。私

が生きてこれたのは、「大丈夫か」と差し出してくれた手、さり気なくも温かい人の好意でした。

私たちは人口減少と少子高齢化の中で、限られたお金の中で生きていかななくてはなりません。私を受け入れてくれたこの阿見町も同じです。お金のことだけを考えれば困難は増すばかりです。それでも人には人を助けたいという気持ちがあります。

行政は、目の前の生活に追われる私のような人間にとって味方ではありません。役所で働く人達の気持ちは、私たちと変わらないはず。壊れ始めているのは、その人たちの気持ちを殺してしまう制度と社会です。阪神淡路大震災から25年がたった今、当時と比べ社会の分断は明らかに進んでいます。「助けて」と声に出すことができずに生活をしている人は確実に増えています。だから、私はこの度、私のような者こそが政治の場にでなければならぬと決意を固めました。

須崎秀信事務所／阿見町阿見4844-5飯塚ビル1F  
電話:090-9101-4359

RIKKEN  
MINSHU  
号外

2020.3.1

立憲民主編集部  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町  
2-12-4 ふじビル3F  
Tel. 03-6811-2301  
Fax. 03-6811-2302  
goiken@cdp-japan.net  
<http://cdp-japan.jp/>

立憲民主

The Constitutional Democratic Party of Japan  
りっけん

# 自治体の政治は社会的に弱い方を助けるために。



**高杉 徹** (たかすぎ とおる)  
立憲民主党茨城県第3区総支部長

[経歴]  
水海道市議2期・常総市議2期・常総市長1期

立憲民主党の須崎秀信さんは、社会的に弱い方々の声をしっかりと議会にとどけるためにチャレンジします。市町村の政治は何のためにあるのでしょうか。それは、一人暮らしの高齢者や障がいのある方や子育てに悩んでいる父母や受験に苦しむ子どもたちなど、社会的に弱い方々を助けるためにあると思うのです。

須崎秀信(すぎき ひでのぶ) プロフィール  
1975(S50)年11月、福岡県生まれ、44歳。高校卒業後、陸上自衛隊に勤務し、阪神淡路大震災の災害派遣などを経験する。2013年2月、民間企業に就職し、阿見町へ。現在、サラリーマンとして勤務しながら、立憲パートナーズのリーダー的存在として活動。中央6丁目在住。趣味は、野球・読書。

阿見町の予算は年間292億円です。この総予算のうち、医療などの社会保険(国保・介護・後期高齢)は91億円で31%を占めています。

これに福祉や健康に関する予算71億円と教育予算26億円を合計すると188億円になり、総予算の64%を超えてくるのです。

予算から見ても、市民生活の大部分は医療福祉と教育にあることがわかり、お金だけで住民の生活を支えていくことには限界があることは明らかです。

だからこそ、須崎さんのような新しい発想をする若者の力が阿見町には必要です。阿見町の議会に新しい改革の風を送るため、立憲民主党の須崎秀信さんを全力で応援します。



タウンミーティングで東海第二原発の再稼働に反対し、原発ゼロを熱く語る須崎秀信さん。

## 阿見町から草の根民主主義の新しい挑戦が始まります。

**立憲民主党**  
The Constitutional Democratic Party of Japan



本当の変化は、必ず小さな声から始まります。

わたしたち、立憲民主党がめざすのは、日本に真の意味での草の根民主主義をつくりだすこと、そして現場の切実な声に根ざした政治を実現することです。色々な困難を抱える人たち、様々な課題に果敢に挑戦する人たち、現在の政治に失望している人たち、それでもなんとか政治を変えたいと願う人たちがいます。

この日本社会に生きる多様な人たちとつながり、ボトムアップで新たな未来のビジョンを描きたい。

本当の変化は、必ず小さな声からはじめられます。

立憲民主党の挑戦は、あなたなしには成し遂げることはできません。ともに新たな挑戦をはじめましょう。わたしたちには、あなたの力が必要です。